St. Luke's International University Repository

Remote Learning of People-Centered Care at a Nursing Department: Practice of People-Centered Care by Nurses

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-03-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 髙橋, 恵子, 中村, めぐみ, 射場, 典子, 森田, 誠子, 大田, えりか, 浅田, 美和, 佐々木, 佳子, 包國, 幸代, 笹山, 桐子, Takahashi, Keiko, Nakamura, Megumi, Iba, Noriko, Morita, Satoko, Ota, Erika, Asaba, Miwa, Sasaki, Yoshiko, Kanekuni, Sachiyo, Sasayama, Kiriko メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/00016370

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

短　報

看護学部 PCC Nursing 論の遠隔授業による取り組み
―看護職における People-Centered Care の実践例を伝える―

髙橋　恵子[1)]　中村めぐみ[2)]　射場　典子[3)]　森田　誠子[1)]　大田えりか[1)]
浅田　美和[4)]　佐々木佳子[4)]　包國　幸代[4)]　笹山　桐子[5)]

Remote Learning of People-Centered Care at a Nursing Department
―Practice of People-Centered Care by Nurses―

Keiko TAKAHASHI[1)]　Megumi NAKAMURA[1)]　Noriko IBA[1)]　Satoko MORITA[1)]　Erika OTA[1)]
Miwa ASADA[4)]　Yoshiko SASAKI[4)]　Sachiyo KANEKUNI[4)]　Kiriko SASAYAMA[5)]

〔Abstract〕
In order to prevent the spread of novel coronavirus infection, university education in the year 2020-2021 has been forced to switch from classroom lectures to remote learning. In the present paper, we report on the outline and students' learning in a remote learning program implemented as a live online class for "People-Centered Care Nursing Theory (PCCN theory)" for the students at the College of Nursing and Accelerated Bachelor of Science in Nursing program, St Luke's International University. In this lecture, students could directly listen to the specific practices of PCC in different settings, such as nursing care in the ward, home nursing care, preventive medicine, and international nursing, from nurses. By using a live lecture to introduce nursing practices within the PCCN theory, actual situations were clearly presented to students, providing an opportunity to pique students' interests and deepen their understanding. In future, we hope to further examine effective and attractive contents and methods of remote learning.

〔Key words〕 nursing department, nursing education, People-Centered Care, remote learning, online lecture

〔要 旨〕
新型コロナウイルス感染症拡大の防止により，2020年度の大学教育は，対面授業を前提とした授業形態から，遠隔授業への変更を余儀なくされた。本稿では，聖路加国際大学の看護学部１年生と学士編入３年次を対象に展開した「People-Centered Care Nursing 論（PCCN 論）」科目の中で，リアルタイムのオンライン授業で実施した遠隔教育の取り組みの概要とその課題を報告する。この講義では，学生が看護職から直接，急性期看護，在宅看護，予防医療，国際看護における異なる場で，PCC が具体的にどのように

1）聖路加国際大学大学院看護学研究科・St. Luke's International University, Graduate School of Nursing Science
2）聖路加国際大学国際・地域連携センター・St. Luke's International University, Center for International and Community Partnerships
3）聖路加国際大学看護学部臨時助教・St. Luke's International University, College of Nursing (part-time assistant professor)
4）聖路加国際病院看護部・St. Luke's International Hospital, Department of Nursing
5）聖路加国際大学大学院看護学研究科（博士課程）・St. Luke's International University, Graduate School of Nursing Science, Doctor's Program

受付　2020年10月20日　受理　2020年11月12日

行われているのかについて話を聴くことができた。PCCN 論の中でも看護実践を紹介するこの部分をリアルタイム講義にしたことで，実際の様子が学生に伝わりやすく，学生の興味・関心が湧き，理解を深められる機会になっていた。今後も，遠隔授業における効果的かつ魅力的な科目内容と教授方法に向けて更なる検討を重ねていきたい。

〔キーワーズ〕 看護学部，看護教育，People-Centered Care，遠隔授業，オンライン授業

Ⅰ．はじめに

2020年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大により，全世界の人々の当たり前の暮らしが一変した。わが国では，厚生労働省より国民の生命を守るため，３月に感染症対策方針として，国民に対して①密閉空間，②密集場所，③密接場面の「三つの密」を控えるよう求められ[1]，政府より４～５月にかけて緊急事態宣言が発令された[2]。そのような中，大学教育は，COVID-19の感染症拡大により，全国で異例の休校措置がとられた[3]。特に感染者数の多かった関東区域においては，５月25日まで緊急事態措置が続き，多くの大学では入学式の中止や新学期が５月に延期された。しかし，新学期開始後も，感染対策に向けた「密集・密閉・密接」を控える行動が続き，従来の大学施設内での対面授業を前提とした授業形態から，遠隔授業形態への変更が余儀なくされた。

そのような中，聖路加国際大学（以下；本学）も，同様の状況に直面した大学の１つである。学生たちは誰もが体験したことのない先の見えない大学生活に不安を感じ，同時に，教職員も度重なる授業日程の変更と慣れない遠隔授業に悪戦苦闘しながらも，よりよい授業方法を模索した。本稿では，今後の遠隔授業のあり方を考える目的で，著者らが担当した，看護学部の必修科目の People-Centered Care Nursing 論のうち，リアルタイムのオンライン授業で実施した「看護職における People-Centered Care の実践例」の取り組みと課題について報告する。

Ⅱ．PCC Nursing 論の概要

PCC Nursing 論の学習目標は，「看護学を形作っている主な概念となる生活，健康，人間，環境，People-Centered Care（以下；PCC）について学ぶ。また，看護・看護学の歴史的発展過程を踏まえ，看護・看護学を考える土台を形成し，看護実践の基礎力を培う」と示している。PCC とは，本学が推進している市民と保健医療専門職とのパートナーシップに基づいた市民主導型の健康生成をめざすケアモデルであり[4]，本概念を看護実践の基盤において学んでいく。PCCN 論の講義内容は，主に，①聖路加の看護の歴史と，ナイチンゲール，ヘンダーソンを代表とした看護・看護学の歴史を学ぶ【看護・看護学の歴史】，②看護学を形作る主な概念である市民の生活と健康について，自分の健康と生活を通して考える【生活と健康】，③病を持つ人の体験を聴き，健康課題を持つ人の生活と健康を考える【健康課題を持つ人の生活と健康】，④医療保健システム，看護におけるエビデンス，看護倫理を学び，その上で，実際にさまざまな分野で活躍する看護職から PCC 実践例を聴き，看護職に求められる市民・当事者との向き合い方，基本的姿勢を考える【PCC と看護】である。PCCN 論は看護学部１年次と学士編入３年次の新入生の合同科目で，約130名を対象とした前期３単位の必須科目である[5]。2020年度の前期は５月10日～８月10日となり，本科目は，毎週金曜の１，２限であった。科目全般の運営に携わった担当教員は，基礎看護学の教員１名と学士編入専任教員１名，臨床教授１名と臨時助教１名であった。また，講義内容に沿って，本学の看護学部長，国際看護学，在宅看護学，ニューロサイエンス看護学の教員と，聖路加国際病院の臨床看護師等が講師を担当した。

Ⅲ．PCCN 論における遠隔授業の準備

３月末の東京都知事による新型コロナウイルス感染爆発を防ぐ措置として大学授業開始日の後ろ倒し等の対策協力への言及を受け，本学は看護学部の入学式を中止した。また，新入生オリエンテーションを５月７日・８日に，大学提供のクラウド上の学習支援システムを利用した在宅学習による授業となり，本科目は予定の１ヶ月遅れの５月15日から開始された。本科目の対象学生は新入生だったため，大学施設の利用経験も，学習支援システムの利用経験もない学生であった。大学が行った事前調査で，パソコンや Wi-Fi 環境がなく在宅の学習環境が整っていない学生が４月の段階で数名いることが分かった。そのため，学生の在宅での学習環境の整備が確認できるまでの授業開始の５月から６月上旬までは，指定教科書や資料を学習システムに提示した課題学習型の遠隔授業を中心に進めた。６月中旬より，事前録画した教材と当事者の体験談を視聴できる健康と病いの語りのデータベース[6]の動画サイトの活用，学習支援システムを用いたグループ閲覧共有など，動きのある学習教材や学習方法を

取り入れて進めていった。6月下旬頃より，静止画と事前録画の動画教材を適宜，織り交ぜ，学習支援システムの機能をフルに活用して進めた。そして，本科目の看護職における People-Centered Care の実践例を伝える授業においては，最終段階のまとめに向け，これまでの授業で得た知識と学生自身が PCC について学んだ概念を実践と照らし合わせて，授業全体の総括を行っていく。そのため，質疑応答を入れた，双方向の授業方法を教員間で模索した。7月時点で，COVID-19 感染者数も減少傾向ではあったが，100名を超える学生との対面授業の感染リスクは高く，断念せざるを得なかった。そこで，担当教員と相談し，担当講師となる看護師の協力を得て，学生の在宅学習環境もおおむね整った時期であったことから，看護職における PCC 実践例を伝える授業を，リアルタイムのオンラインで試みることとした。

Ⅳ．看護職における PCC の実践例の講義の実際

授業では，【People-Centered Care と看護】をメインテーマにおき，**表1**に示す通り，科目責任者が PCC の定義を話した後，病棟（急性期ケア），地域・在宅ケア，予防医療，さらに国を超えて活動する国際看護の4領域で活動する5名の看護職が，各20～30分ずつリアルタイムのオンライン講義に登場し，それぞれの PCC の実践例を説明した。以下に講義の概要を紹介する。

表1　授業構成【看護職における PCC の実践例】

テーマ［担当者］	（1・2限）
1．People-Centered Care の定義	［科目責任者：髙橋恵子］
2．病院・病棟における PCC 実践例	［看　護　師：浅田美和］
3．地域・在宅における PCC 実践例	［訪問看護師：佐々木佳子］
4．予防医療における PCC 実践例	［看　護　師：包國幸代］
5．海外での PCC 実践例	
1）世界の看護職の活動：世界の人々の健康のために	［国際看護学教員：大田えりか］
2）海外での PCC 実践例（西アフリカの事例）	［看　護　師：笹山桐子］

1．People-Centered Care の定義

［担当：科目責任者］

講義の導入では，科目責任者より，PCC の定義を確認した。具体的には，「PCC とは，個人や地域社会における健康問題の改善に向け，市民が主体となり，健康保健医療者とパートナーシップを組んで行われる取り組みであり，PCC を行う際に，パートナーシップの8つの要素（互いを信頼し，理解し，尊敬する，3つの関係性を示す姿勢と，互いの持ち味を活かし，互いに役割を担い，意思決定を共有し，共に学ぶ，5つの行動姿勢の構成要素）が必要となること[4]」を話した。この定義を念頭に，看護師における PCC 実践例の講義を聞いていくよう伝えた。

2．病棟における PCC の実践例

［担当：聖路加国際病院 看護師］

「病棟における PCC の実践例」では，急性期病院に入院している患者・家族を対象とした PCC の実践について，実際の事例をもとに説明した。特に「患者の強みを看護に活かす」ことに焦点をあて，急性期医療の現場で患者とパートナーシップを築くためにどのようなことができるかについて，具体的な場面を提示した。COVID-19の影響で，病院での見学実習を実施していないことから，学生の中には，実際に病院に足を踏み入れた経験がない人もいた。そのため講義の中では，患者の言葉をそのまま用い，また病棟での実際のカンファレンスの様子や医療物品の写真を示すなど，学生が少しでも臨床現場の雰囲気や特徴を掴めるよう心掛けた。

3．地域・在宅看護における PCC の実践例

［担当：聖路加国際病院 訪問看護師］

「地域・在宅における PCC の実践例」では，訪問看護ステーション利用者への実践例を用いながら紹介した。在宅では利用者の生活の場に伺って看護を展開する。訪問看護師は疾患・病態に関する理解はもちろんであるが，その人の歴史や大切にしていること，どう生きていきたいのかなどについても触れる機会が多い。また家族や知人，主治医やケアマネジャー，ヘルパーなど関わる人々と連携しながら「その人らしさ」とは何か，看護師としてできることは何かを考え，チームの一員としての役割を果たしている。そのため，今回の講義では，看護師が何を見て，何を考え，どのように対応しているのかなどを話し，看護職の内面的な部分を伝えた。

4．予防医療における PCC 実践例

［担当：聖路加国際病院 看護師］

「予防医療における PCC 実践例」では，特に，生活習慣病予防の行動変容につながる人々への看護職の保健指導について話をした。看護職は，人々の生活習慣がその人の人生に関わることを念頭に入れていくことが大切であることを伝えた。そのため，看護職が保健指導を行う際に，その人が主体的に考えられるようにすることが重要であることを説明した。また対象者を中心した保健指導が具体的にどのようなものかを学生が理解できるように，このプロセスを実際の当事者と看護職との会話を紹介しながら説明した。

5．海外での PCC の実践例

1）世界の看護職の活動

［担当：聖路加国際大学 国際看護学教員］

「世界の看護職の活動」では，最初に世界の看護職の活動と，世界の人々の健康のために作られる最新のエビデンスをテーマに話をした。具体的には，世界保健機関（WHO）のガイドライン作成や国際的な共同研究の事例を紹介した。担当者が参与する医学論文のシステマティックレビューを行う国際的団体であるコクランレビューのエビデンスが WHO のガイドラインになる過程や，PCC の視点が大切なことについて，写真を取り入れながら紹介した。また，看護学部４年次の科目（看護ゼミナール：系統的レビュー）で，科学的根拠をまとめる手法を学べることを伝えた。

2）海外での PCC の実践例：西アフリカの事例

［担当：海外での活動経験のある看護師］

「海外における PCC の実践例」では，日本だけでなく，海外においても同様に PCC の実践が提供されることを伝えるため，担当者の海外での経験を紹介した。国際看護を実践する上でも，「PCC のパートナーシップに必要な８つの要素」が重要であることを伝えるため，西アフリカ圏での医療活動を事例に，写真を取り入れて話をしていった。具体的には，８つの要素に関係する途上国での現状について説明した。国際看護に興味ある学生も多く，リモートによる授業ではあったが，学生からオンライン上でも積極的な質問があった。

3）学生との質疑応答

前半３名の看護師の話の後に10～15分程度，また後半２名の看護師の話の後に10～15分程度の質疑応答の時間を設けた。質問方法は，オンライン上で学生たちが，講師の看護師に口頭で質問する方法または，オンラインシステムのチャット機能を用いて，その質問を科目担当者が読み上げ，講師が口頭で回答する２つの方法をとった。オンライン上であったが，学生は，PCC 実践の困難事例について，紹介事例の看護師の役割について，海外における実践方法の違いについてなど，講師に積極的に質問をしていた。

写真１　看護師によるリアルタイム・オンライン講義

Ⅴ．学生の学びと感想

授業終了後の学生の感想では，現場で働く看護師の生の声を聴くことができ，より理解が深まったことや将来へ向けてのモチベーションが上がったこと，これまでと違ったリアルタイム授業が嬉しかったこと，また楽しかったこと，対面授業に近い授業を考えリアルタイム授業を開催したことへの感謝といった授業方法に関するポジティブな感想が，学生の半数近くから寄せられた。また，授業内容については，「医療者にとってのベストを尽くすのではなく，患者の持つ強みを最大限引き出すことが非常に重要だと学んだ」「本人の希望を確認し，その人らしく生活ができるようなケアが，その人の生きる希望やポジティブな思考に繋がることを学んだ」「対象者の考えを否定せず，ありのままを受け止め，決定は対象者に委ねることが大切だと学んだ」「海外でも PCC の８つのパートナーシップを念頭において，それぞれの国の文化を尊重していくことが大切だと学んだ」など，どの分野であっても，PCC に基づき当事者主体の看護を実践していることを学び，また，当事者のことを理解し，共に考えることの大切さを学んでいた。また，同時に，病棟（急性期），地域・在宅，予防医療，国際看護のそれぞれの特徴を知り，より看護への関心が高まり，授業後にも講師に質問を寄せる学生も多かった。

Ⅵ．講義担当した看護師の感想

講義を担当した看護師からは，リアルタイムのオンライン講義を実施し，以下のフィードバックを得た。

- PCC の概念を形式的に理解するだけでなく，臨床での実践レベルで具体的な行動について考えようとする学生の姿勢が伺えた。今後，臨地実習等を通じて，学生自身がさらに理解を深めていくことに期待したい。
- 看護師の立場で感じたことや自分の家族を思い出したことなどの授業後のコメントを見て，自分自身も何かを大切に生活している一人だということを忘れずに，色々な経験を積んで PCC は当たり前のことだと実感できる看護師になってほしい。
- オンライン講義であったため，受講している学生の表情が見えず，学生が興味を持って聞いてくれているのかがわからなかったが，学生の感想を確認し，学生が良く理解していたことが分かった。看護を学び始める最初の時期に，対象者中心の姿勢の大切さを実感してもらえたことは意義深い。
- 学生にとって国際看護学に触れる最初の講義となったが，国際看護に興味を持ったという感想が多く聞けて

よかった。講義終了後も，将来的に国際看護に関わる仕事に就きたい学生からの相談が多く寄せられ，講義を通して学生は，日本国内だけではなく，世界における健康問題の改善に向けてどのように医療職者は取り組むべきか学べる機会になっていた。

担当講師らは，授業内の積極的な質問をする学生の姿勢と同時に，授業後の学生の感想を読み，講師として学生に伝えたかった内容が，オンライン授業であっても，しっかりと伝わっていたことを実感していた。

Ⅶ. 考　察

今回，COVID-19の感染拡大により，当たり前であった大学施設内での対面授業を前提とした授業形態から，遠隔授業形態への変更が余儀なくされた。しかし，遠隔授業であっても，学生たちは臨床現場で活躍する看護職の話をオンライン上で，リアルタイムに聴くことができ，その場で質問をすることもでき，病棟での看護，地域・在宅ケア，予防医療，国際看護といった異なる状況の中で，PCC がどのように行われているのか，具体的にその実践方法について学ぶ機会となっていた。今回紹介された場においては，対象は患者だけでなく，健康な市民，集団と多様であり，目標やアプローチも異なる。PCC の要素のどこに焦点を当てて展開しているのか，展開するときの苦労や障壁はどこにあるのか，PCC の実践によって対象者と医療者の双方にもたらされる満足感や達成感はどのようなものか等，各領域の専門家である講師がスライドを用いて，本人の言葉で，実際の事例について生き生きと伝えてもらうことで，現場経験のない学生たちにとって PCC という概念が実践可能なリアリティを持つものとしてイメージできたのではないかと思われる。また，講師とのリアルタイムの質疑応答の時間を持つことで，学生は様々な分野へ関心を広げ，将来の自分が目指したい PCC の活動に心動かされる授業になったと思われる。また，同時に，今回のリアルタイムのオンライン授業は，担当した講師にとっても，オンライン上ではあるが対象の学生を身近に感じながら授業が行えたのではないだろうか。PCCN 論では，生活，健康，人間，環境，People-Centered Care の概念の説明が中心となりがちであったが，終盤の看護実践を紹介する今回の講義をリアルタイムの講義にしたことで，実際の実践方法や講師の熱意が学生に伝わりやすく，学生の興味・関心が湧き，より理解を深められたのではないかと考える。

Ⅷ. 今後の課題

近年，遠隔授業に向け，さまざまな学習システムが開発され，オンライン学習の環境も整ってきている。しかし，今回，リアルタイムのオンライン授業を実施し，何点か課題も挙げられる。1つ目は，学生側の学習環境の準備の問題がある。特に，新入生は新生活の準備に時間を要するため，入学までにパソコン準備や Wi-Fi 環境の整備を行うことを入学に向けた準備の必須事項に含めることも1つの方法として考えられる。2つ目は，リアルタイム・オンライン授業の配信・受信の中断トラブルである。今回，学生側の問題で授業の受信が中断した学生もいた。この問題に対しては，授業中断の可能性を想定し，講師と学生に事前に同意を得て授業を録画しておくとよい。また，大学側の配信トラブルも考えられるため，切り替え可能なパソコンを複数準備し，トラブル時に対応できる数名の教員と事務アシスタントと共に進めることが必要である。3つ目は，100名を超える学生の反応を遠隔授業で確認することの難しさがある。しかし，リアルタイムでの質疑応答や，オンライン会議システムのグループワーク機能等を活かすことで，一方的な講義配信でなく学生の反応や理解を確認しながら遠隔授業を進めていくことができると考える。

Ⅸ. おわりに

今回の講義は，遠隔授業であったが，リアルタイムのオンライン授業を取り入れたことで，学生たちは直接，看護師から日頃の具体的な実践例を聞く貴重な機会となった。病棟，地域・在宅，予防医療，国際看護といった多様な場の PCC の実践例からの学びは学生の感想でも多く言及されており，PCC の理念を体感することにつながり，授業全体の総括を行うことができたと考える。
今後も，学生からのフィードバック，そして，本科目に関わって下さる方々のご意見を基に，授業方法の工夫，内容の改善を図っていきたいと考える。

謝　辞

本授業の準備にあたり，ご協力下さいました事務職員，アシスタントの皆様に心より感謝いたします。

引用文献

1）厚生労働省．政府の取組．新型コロナウイルス感染対策の基本方針［Internet］．https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/seifunotorikumi.html#h2_1［参照 2020-10-15］
2）首相官邸．新型コロナウイルス感染症対策本部（第27回）［Internet］．https://www.kantei.go.jp/jp/98_abe/actions/202004/07corona.html［参照 2020-10-15］
3）文部科学省．感染拡大の予防と研究活動の両立に向けたガイドライン［Internet］．https://www.mext.go.jp/content/20200518-mxt_kouhou01-000004520_1.

pdf［参照 2020-10-15］
4）髙橋恵子，亀井智子，大森純子ほか．市民と保健医療従事者とパートナーシップに基づく「People-Centered Care」の概念の再構築．聖路加国際大学紀要．2018；4：9-17.
5）髙橋恵子，中村めぐみ，射場典子ほか．看護学部1年次と学士編入3年次の合同科目である「People-Centered Care Nursing 論」の概要と課題．聖路加国際大学紀要．2020；6：131-6.
6）認定NPO法人健康と病いの語りディペックス・ジャパン［Internet］．https://www.dipex-j.org/［参照 2020-10-15］.